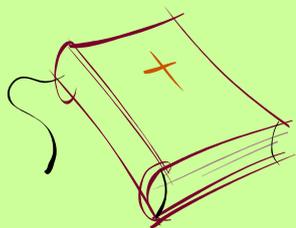


# MB 伝道ニュース



## 開拓伝道のビジョンを語る(13)



石賀 満師

「桃栗三年柿八年」という言葉がありますが、では、伝道は何年なのでしょう？

近年、日本では伝道が思うように進んでいない現状があります。昔のように、礼拝に新来会者が（河内長野聖書教会）なかなか来ない。来ても続かない。洗礼を受ける人も少ない。洗礼を受けても、数年後には、教会から離れてしまう。また、世の中同様、教会も少子高齢化で、一年間で、洗礼式の回数よりも葬式の回数の方が多くなりつつあります。また、教会が経済的に困窮し、教会が閉鎖や、合併するケースも全国で起こっています。では、どうすれば、伝道がうまくいくのでしょうか？今、様々な伝道方法や伝道ツールがあります。伝道セミナーや伝道研修会も昔と比べるとかなり充実していると思います。しかし、残念ながら、「こういう方法で、伝道すれば、必ずいい結果が出る。」という万能な方法はないと思います。（もし、あればみんなやっています。）今まさに、伝道の方法論が通用しない時代に突入しているように感じます。では、どうすればいいのでしょうか？やることは2つあります。1つ目は「困った時の神頼み」です。今こそ神様に頼り、祈り続けることです。2つ目は「困った時は、原点に戻る。」ということです。伝道の原点とは、それは「祈りとみことば」です。当たり前と言え、当たり前のことですが、しかし、当たり前のことが一番大切です。そして、当たり前のことは当たり前過ぎて、意外と見落としがちです。今、アジア各国では、順番にリバイバルが起こっています。韓国、中国、台湾、そして、北朝鮮にも実は、数多くのクリスチャンがいます。それらのリバイバルは決して伝道の方法によって、起こったものではありません。祈りとみことばからリバイバルが起こったのです。私は今、聖書を読むこと（聖書通読）、特に声に出して、音読することを多くの人に勧めています。私は、毎日1時間以上、聖書を音読します。声に出して、聖書を読むとみことばの中で、イエス様に会い、イエス様と交わることができます。また、神を知るための知恵と啓示の御霊（エペソ1:17）も与えられます。私は毎日、次のように祈ります。「みことばと一体になり、みことばと同じ人格になり、みことばにしっかりつながって、主との親密さを回復させてください。アーメン。」

日本メノナイトブレザレン教団の三本柱、それは、①聖書の民②宣教の民③平和の民です。最も大切なのは、聖書です。みことばから、宣教、平和へとつながっていくのです。では、いつつながるのでしょうか？「まことに、その人は主の教えを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ。その人は水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は何をしても栄える。」詩篇1:2~3 神の時が来た時、みことばから宣教、平和へとつながり、豊かな実を結ぶことができます。長期的な意味でも、短期的な意味でも、神の時があります。今は伝道が困難な時代、冬の時代と言われていますが、冬の次には、必ず春がやって来ます。夢と希望、ビジョンと信仰をもって、日々、聖書を音読し、宣言して、祈って、神の時を待ち望みましょう。開拓伝道の開拓という文字は、「開く（ひらく）」と「拓く（ひらく）」という両方とも、「ひらく」と読む文字から成り立っています。まず私たちがみことばに対して、霊的な目がひらかれて、心がひらかれていく時、開拓伝道の働きもひらかれていくと信じます。日本にも必ずリバイバルは起こります！神の時は、もうすぐそこまで来ていることを心から信じ、宣言します。ハレルヤ！栄光在主

北米MBミッションより、7月8日(日)～8月6日(月) 約一ヶ月の日程で、5名の青年が日本のMB教会で奉仕をしました。堺中央教会、いずみホープチャペル、藤が丘教会、豊田東教会、小牧ホープチャペルがプログラムを提供しました。その他にも日帰りのイベントを企画した教会や、地域のボランティア活動や大学生との交わりを企画した有志もいました。多くの方々の協力で、参加したメンバーにとっても受け入れたMB諸教会のみなさんにとって大きな恵みとなりました。

いずみでのプログラムの例を紹介します。①英会話クラスの生徒さんへの交流、②子どもの英語プログラム、③青年の交流プログラム、④礼拝での賛美とバーベキューの交わり、⑤青年の賛美と祈りの集会を持ちました。各集会では、必ず彼らの証しをしてもらい、計6回の証しの時を持ちました。教会につながりはあるが、まだ信仰決心に至っていない人に焦点を当てた内容として、チームのメンバーの賜物を豊かに用いることができました。

伝道委員会として来年も引き続き、この企画を提供することを考えていますので、多くのMB諸教会が参加して、豊かな恵み受け取っていただければ感謝です。(伝道委員長 田畑雅紀師)

### 【苦勞編】

●移動が、少し大変でした。言語もわからず、値段もわからなかったのので。名古屋駅から豊田へ行く時も、名古屋から大阪に来て、堺に行く時も、地下鉄を使用しました。大きな荷物も持っていたので、移動の苦勞がありました。

●日本では、台風があります。台風が来たら、人間の計画は、白紙になります。台風を通して自然の力の前に、謙遜になりました。

●プログラムがある時は、それをしていれば良かったのですが、自由な時間がある時は、自分ですべきことを見つける必要がありました。



### 【発見編】

●日本のみなさまから受けた「もてなし」が心を打ちました。日本で温かく迎えられたので、その心をカナダに持ち帰りたいと思います。

●この旅行に来る前は、人間の選択は、クリスチャンになるか、無神論者になるかの二つに一つだと思っていました。しかし、京都で寺社仏閣を見学し、多くの人々が参拝しているのを観て、偶像礼拝の現実を目の当たりにしました。

●日本には、歴史があります。文化では、祭り、茶道もあります。カナダでは、それほど古い歴史はありません。

●個人と共同体のことを良く考えました。自分の部屋で一人過ごすよりも、もっと共同体の中で生きることを学びました。

●日本には、恥の文化があることを知りました。恥の文化では、オープンに自分の問題を話すことは困難です。このような中で、福音を伝えて行く難しさを覚えました。

### 【今後のビジョン編】

●今回の旅の中で、神さまが夢を見せてくださいました。性産業で、苦しんでいる人を助ける働きはないかと、考えるようになりました。

●日本に来て直接働きをすることはないかもしれませんが、継続してコンタクトを取って、再度訪問する機会があればと思っています。

●日本が多くの宣教師を送る国になることを祈っています。私自身は、科学の教師なので、外国で教えることができようになればと思っています。



(伝道副委員長 藤井義生師:翻訳)

編集後記\*☆皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行:日本メノナイトプレザレン教団 伝道委員会

〒563-0032 大阪府池田市石橋2丁目17-10-B TEL:072-762-5731

発行者:田畑雅紀(伝道委員長)

編集者:河野和雄(広報担当)